

富山県立大学 COC NEWS

Vol.9



[CONTENTS]

- ピックアップ!
- R1地域協働活動報告
- R1地域志向取り組み
- R1成果発表会
- COCOS

11、12面

9、10面

8面

2-7面

1面

PICK UP!
地域協働の拠点が新しくなりました!



かねてより建設が進められてきた富山県立大学の中央棟が完成し、令和2年3月29日に竣工式が行われました。この新棟は地下1階、地上9階建。この1階の正面玄関すぐの場所に、新しい地域協働支援室が配置されました。隣のアクティブラーニング室、ラーニングコモン、COCOSの活動拠点とあわせて、学内の「地域協働ス

ペース」として新しく産声を上げました。

アクティブラーニング室は、これまで同様に授業やゼミ、研究室等で利用が可能で、地域の方も交えた地域協働に関するミーティング等にも活用できます。アカデミックモールと名付けられた新棟の中央廊下に面したラーニングコモンは、部屋の仕切りがない共有スペースで、多様なプレゼンテーションに対応したプロジェクターや電子黒板が設置されており、簡単なミーティングなど自由に利用できる空間となっています。COCOSの活動拠点や地域協働支援室も含めて、学内だけでなく学外の方も訪れやすい大学構内の中央位置に移動し、より地域と密接に活動を展開できる「地域協働スペース」となっています。令和2年度に新たなスタートを切った、新しい地域協働の拠点をぜひお立ち寄りください。

PICK UP!
COCOS 紹介動画



入学生にCOCOSがどのような活動をしているかを知ってもらうために、動画を作成し、入学式にて上映を行いました。動画は学校内をはじめ氷見や小矢部市アウトレットなどこれまでの活動場所でも撮影したものです。この動画の影響か昨年度は10人の新入部員が来てくれました。今年度も部員を増やすための動画を作成しました。Youtubeで「地域協働研究会COCOS」で検索、または、下のQRコードからご覧いただけるのでぜひ見てみてください!

COCOS とは?

COCOS は 2014 年 4 月に結成した学生団体です。COCOS は COC(Center of Community) と OS(オペレーティングシステム)の略称であり、工学を学ぶ学生の視点から、地域と共に考え、活動する取り組みを行っています。また、COCOSには、地域が抱えている問題を地域の方々と対話する中で探り出し、そしてその解決に向けどうすればよいかを考え、行動する理念があります。富山県立大学のCCMというサークルや、富山大学、富山国際大学など様々な大学団体と協働した活動も行っています。

さらに、学内では成果発表会の運営やCOC事業を行っているゼミで先生のお手伝いをするCOCTA(teaching assistant)も行っています。興味のある方はぜひ地域協働支援室、および地域協働研究会COCOSまでお声がけください。



令和1年度COC活動報告

miryoku

たい焼き挑戦を通した高岡
銅器メーカーと高校との連携

岩井専門・トピックゼミ

高岡の北辰工業所、高岡向陵高校、未来探究コース2年生と共に、「たい焼き世界一に挑戦」プロジェクトに参加し、全長1mのたい焼きを焼くため工学部大学生の知見から装置の作成・技術指導を行い、また大学祭でのたい焼きイベントの開催を行いました。プロジェクトには生地を焦がさずに中まで火を通すこと、イベントのため短時間で焼くことという2つの課題があり、解決のため3層ミルフィーユ焼きや電気パンを焼く方法、ナノバブルを混入する方法など様々な方法を考案、実施しました。この試みを通して、PDCAやイベントの工程についての論理的思考を体験することができました。



kodomo

子供たちとイベントで賑わい
づくり in 小杉&高岡

小林教養ゼミⅡ



イベントを通して子供たちと交流し賑わいづくりすることを目的に、7月には小杉・竹内源蔵記念館で、12月には高岡・たかまちブレイスで簡単な工作教室を実施しました。小杉では、スライム作り・割れないシャボン玉作り・アルミニウム玉作り・メントスコラ作り、高岡ではミニクリスマスツリー作りを行いました。それぞれのイベント合わせて24人の子どもたちが参加してくれ、難しかったけど楽しかった」「メントスコラの爆発がすごかった」「お兄さんお姉さんたちが優しく教えてくれて楽しかった、また来たい」などの感想をいただきました。

jizoku

大学教育における地域
連携事業を考察する

福原トピックゼミⅡ

様々な地域課題は突き詰めれば人口減少・少子高齢化につながっている。そして、この難題に対して大学の地域連携事業では、①学生が地域に滞在する、②大学の研究力を生かした新たな事業を創出する、この2つの典型の活動で取り組んでいる。この2つの典型どちらがより人口問題に有効化を考察することを目的に、南砺市で、電気柵設置、ぎんなん収穫、ぎんなんフェスタへの参加を行いました。この活動を通して、南砺市へ出向いたことで地元の方から「若い人が来るから年寄り元気になった」「このゼミの活動がなければ、銀杏栽培はやめていた」とのご感想がいただけました。

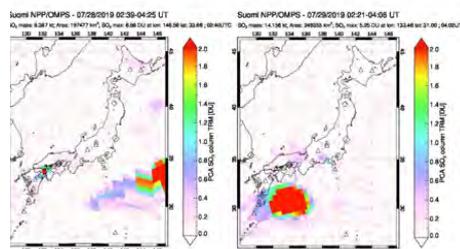


anzen

小矢部市の山間部における
大気環境観測2019

渡辺専門ゼミ

桜島噴火前後のSO₂の鉛直カラム量の衛星画像



近年、アジアにおいて大気汚染物質が越境輸送されているという問題が起こっています。そこで小矢部市でエアゾル粒子、オゾン、二酸化硫黄、窒素酸化物の測定を行いました。

その結果、1、5月にはアジア大陸からの越境汚染、3、10月にはアジア大陸からのPM_{2.5}と黄砂の影響、7月には桜島火山噴火による二酸化硫黄とPM_{2.5}の影響が観測され、アジア大陸からの越境汚染だけでなく火山活動による大気環境があることがわかりました。

kore isya

ロコモティブシンドロームについて考える 上村トピックゼミⅠ



日本での高齢化に伴い、骨や筋肉の機能低下により要介護や寝たきりになるリスクの高い状態「ロコモティブシンドローム」の人が増加しています。そこで、「ロコモティブシンドローム」について小杉南地域包括支援センターへの訪問調査、地域サロンでの発表会・茶話会、アンケート調査を行いました。調査、発表会を通して、日常生活における食事や運動が大切なことロコモ予防の工学機器は高額なため調査した支援センターでは使用しないことがわかりました。そして実用性のある機器を作ることやロコモについて若い世代にも知ってもらうことが課題として挙げられました。

kodo mo

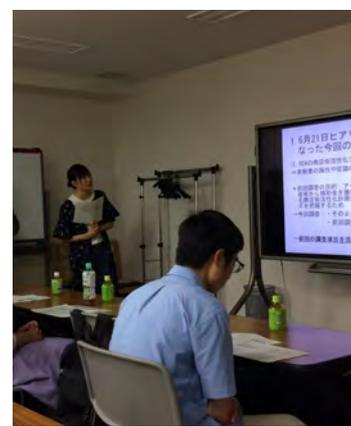
太閤山ランド・こども未来館とバクテロイゴを活用した腸内細菌リテラシー教育の試行 古澤教養ゼミⅡ



近年、日本では高齢化が進み健康寿命の延伸が課題となっており、予防・先制医療への注目が集まっています。そして腸内細菌は人の健康にとっても大切な役割を果たしています。そこで、子供たちに腸内細菌に興味・関心を持ってもらうことを目的に太閤山こども未来館にて東工大が開発したボードゲーム「バクテロイゴ」をプレイするイベントを開催しました。このバクテロイゴは腸内細菌がかわいいキャラクター化され登場し、それぞれの働きを楽しく学べます。イベント広告の作成や当日のルール説明を実施し、子どもたちと共に楽しく遊びながら腸内細菌について学ぶことができました。

miryo ku

富山市西町商店街の活性化について 濱トピックゼミⅠ



富山市西町商店街の活性化を目的に、前期はアンケートの質問項目を考案し、後期はアンケート調査の実施・分析と商店街活性化の提案を行いました。調査データを学生、近隣住民、仕事客の3グループに分け、それぞれの商店街の利用状況を分析し、利用増大のための提案をまとめました。学生は、情報源としてSNS利用が多いことから、SNSによる情報発信の増大を提案しました。近隣住民は、生活用品店の充実を望んでいる人が多いことから、ホームセンターやドラッグストアの充実を提案しました。仕事客は、駐車場や休憩スペースの充実を望んでいる人が多いことから、それらの増大を提案しました。

jizoku

とやまのSDGs人 中村専門ゼミ

富山県の企業、団体におけるSDGsの取り組み内容と推進している方々の思いを調査するため大高建設株式会社、富山YMCA、北陸電力株式会社のにインタビューを行いました。大高建設では、大橋社長がSDGsを重視しており社員研修でコミュニケーションを取ることで社員の末端までSDGsを浸透させていること、富山YMCAでは学校へ行けなくなってしまう人のためにフリースクール活動を行っていること、北陸電力では女性社員が活躍し、また再生可能エネルギー発電に取り組んでいることがわかり、企業・団体それぞれの観点からSDGsに取り組んでいることがわかりました。また、推進者の方々は、「美しい自然を守りたい」「お金に換えられない価値を産み出したい」、そして「再生可能エネルギーを広くめたい」という思いでそれぞれ仕事に取り組みんでおられました。





Enjoy Communication
「多文化共生社会を生きる」

林教養ゼミⅠ

他国の文化や考え方を学び、理解を深めることを目的に、富山県立大学の留学生との交流、外国人講師を交えた討論会を行いました。交流会では伝言ゲーム・ドッチボール・しっぽとりゲーム・ランチを行い、討論会では外見の違いによる差別や文化の違いによるトラブルについて討論しました。

その結果、アジアの人は白人へ憧れから白人を特別視するのではないが、習慣が異なることが原因でトラブルが起きやすくなるのではないかと、この考察をしました。そして相手の文化や考え方を思いやりを持って理解しようとする、偏見や先入観をもちたず、積極的にコミュニケーションを取ることが大切だとわかりました。



入善町商店街の活性化
について

榊原・中村・星川プレゼンテーション演習



入善町商店街の活性化を目的に現地調査、商工会の学生との意見交換会、論文調査を行い、商店街活性化のためのアイデアの提案を行いました。

調査の結果、雰囲気や駐車場、利用世代などに関する課題が挙げられる一方で、駅が近い観光者用に自転車の貸し出しを行っている既存のイベントがいくつかあることなどの長所も挙げられました。結果をもとに、看板やマップを設置すること、景観向上、店主の顔を出すことで店に入りやすくする案、商店街でフライダルをする案、インスタ映えするカフェを作る案などの提案を行いました。



高齢者の行動能力測定システム
評価に向けた高齢者との
対話コミュニケーション力養成
鳥山研究室Ⅱ

近年、高齢者の増加に伴う介護人材の不足が問題となっており、人の手を借りない介護予防が必要となっています。そこで高齢者のリハビリについて、どのような要素があれば継続的に行うことができるのかを対話を通して調査することを目的に、高齢者7名を対象に「Wii sport」をプレイしてもらい、ゲーム後にゲームの感想や操作性の難易度についてアンケートを行いました。

その結果、スコアを重要視している、スポーツゲームの操作の理解に時間がかかる、他の高齢者のプレイを見て一喜一憂するなど、高齢者視点の感想や操作性の情報を得ることができました。



富山市中心商店街
活性化のための観光アプリ
菓子コンテンツの開発
中村トピックゼミⅠ



富山市中心商店街の活性化を目的に、スマホ観光アプリ「Discover TOYAMA」に実装する菓子コンテンツの設計を行いました。商店街の菓子店舗6店を訪問して菓子の歴史や魅力を事前調査した上で、富山駅、商店街で観光客および住民を対象とした街頭アンケートを実施しました。100人以上からのアンケート結果を分析し、店舗の場所の認知度や県外の方々に対する菓子の知名度に課題があることがわかりました。その結果を踏まえ「誰にでもわかりやすい検索機能、地図」「楽しく富山のお菓子について知ることができる」をコンセプトにした2つのコンテンツ設計案を提案しました。



jizoku
射水市IoTプラットフォームを
想定した新規サービスの提案

大寺トピックゼミⅡ

行政サービスの充実、職員業務の効率化・負担の軽減、ビッグデータの収集と活用、自然災害に対し市民に正確かつ迅速な情報提供など射水市でも様々なIoT活用事業があります。今回は、IoTを活用した新規サービスの提案を行いました。①カメラの顔認識機能を使った大学での出席管理サービス、②店舗において平均滞在時間・来店人数から混雑状況を把握するサービスの2つを提案しました。

①では、マスクなど顔が隠れている場合の判断、一つ一つの座席にセンサーを設置する必要があるためコストがかかることが今後の問題として挙げられました。

sangyo
サケと川の過去
現在と将来

高橋トピックゼミⅡ



サケを①人との関わりについて、②資源量の動向について調べ、将来サケを持続的に利用するためには何が重要かを考えました。

調査の結果、①ではカムバックサーモン運動などの教育活動への利用、特にアイヌ民族は皮を靴として利用していたことがわかりました。②では海水温の上昇、ダムによる遡上障害や河岸のコンクリート化による生息環境の悪化、放流魚の脆弱性などの原因から減少していることがわかりました。その対策として、温暖化防止、河川環境の回復、資源保護・増殖における野生魚の活用が必要であると考えました。

koreisya
ドップラーレーダを用いた
運動計測による健康チェック

佐保専門ゼミ・卒業研究



ドップラーレーダーは電磁波の反射を測定することで速度変化を測定できる機器です。今回は、ドップラーレーダーを用いて簡易で低コスト、非接触で計測できる健康チェックシステムの実現を目的に射水市在住の高齢者を対象に実験を行い、①運動計測パラメーター解析及び認知症リスク評価への応用、②歩行計測による腰椎圧迫骨折の判断システムの開発の2つに取り組みました。

①では、人間の基本動作である歩行などから認知症リスクが把握できることがわかり、さらに歩行と起立着席運動を合わせて計測することで精度が向上することがわかりました。②では、歩行運動から腰椎圧迫骨折経験者の判別ができることがわかり、さらなる応用への可能性が見出せました。

jizoku
滑川の魅力発信
3年目はSDGsに取り組み
企業・団体にフォーカス

清水教養ゼミⅡ



滑川市が目指す「首都圏の20・30代の子育て世代の移住」の促進に向け、後期教養ゼミでコンソーシアム富山地域課題解決事業（滑川市）に取り組みました。人口減など課題の多い地方自治体で、持続可能な社会の実現に向けSDGs達成に取り組む企業・団体の存在が移住先を探す人には魅力的に映ると考えました。また、滑川市内の企業・団体がSDGsに取り組んでいる事例を発信する過程で、取材先及び取材した大学生双方のSDGsに対する理解が深まることを目指しました。

3年目となった今年度は、滑川市の発信力のさらなる向上を目指し、SNSと冊子の2種類の媒体で発信しました。

san gyo

画像処理プログラミングによる 地域産業の効率化の試み

中田・西原トピックゼミⅡ

本ゼミでは、地元企業における、働き方改革における持続可能な開発目標（SDGs）の実現を目的として、情報エンジニアができることとして画像処理プログラミングを用いた様々な提案を行いました。実際に製造業の現場を見学し、6班それぞれで具体的に提案・プロトタイプを作成、企業へのプレゼンテーション・デモ発表を行いました。優秀な班が表彰されました。優勝した班は感圧センサと音声認識、顔認証を組み合わせた出勤記録システム、2位の班はラインで囲まれた工場の安全区域の逸脱を警告するシステムでした。



miryo ku

富山県の伝統工芸品を 活用した楽器の世界

NVFC Lab.



富山の伝統工芸品の一つである高岡銅器を使用したエレクトリックギターを制作し、「音質が通常のギターと異なる」という声をつけ、出力電圧信号、振動加速度を計測することで機械工学的にその理由を調査しました。このギターではボディ部分であるピックガードに高岡銅器が用いられており、既存のものは樹脂製であるという違いがあります。調査の結果、通常のピックガードに比べて硬く、使用したときに音の振動が拡散せずに強く残ることがわかり、それらの違いから音がクリアでシャープになっていくことがわかりました。

miryo ku

e-Sportsサークル

このサークルは、eSportsに関わるイベントの企画・運営を行いeSportsを楽しむためのコミュニケーション活動を行います。具体的には、初心者でも参加できeSportsをわいわい楽しむenjoy会を開催したり、Toyama Gamers Day 2019へ運営として参加したりしました。

また他の団体や地域との交流として、他県のeSportsサークルや富山eSports連合と協力したオフライン大会を開催し、老人ホームでeSportsを用いたレクリエーションを行うProject-seniorの企画を行いました。今後は富山福祉短大との共同研究や大学祭でのステージイベントなどを行う予定です。

2019年度サークル決定

「eSports」の魅力を伝えるための企画、運営を行い、富山県立大学eSportsサークルの活動を盛り上げたい。サークル活動の活性化を図りたい。富山県立大学eSportsサークルの魅力を伝えるための企画、運営を行い、富山県立大学eSportsサークルの活動を盛り上げたい。サークル活動の活性化を図りたい。

イベント年表

- 4/21 第1回Enjoy会 (機種G-6) with プロゲーマー Tomo/riku
- 5/26 第2回Enjoy会 (オフ会)
- 6/16 第3回Enjoy会 (FPS: LoL) with Bill eSportsサークル
- 7/6 オフライン大会 (Shadowverse)
- 8/24 第4回Enjoy会 (オフ会)
- 8/25 オフライン大会 (Shadowverse)
- 9/28-29 Toyama Gamers Day 2019 / SG Coliseum
- 10/26-27 大学祭 コラボ大会
- 11/30 オフライン交流会 (FPS: CoD:W) with 富山eスポーツ連合
- 12/22 第5回Enjoy会 (オフ会)

NEXT project-senior

miryo ku

天文部



黒部峡谷鉄道にて、星空観測を目的に開催されている「星空トロッコ」イベントの運営を担い、星空解説などを行いました。このイベントは9月27日、28日に実施し、残念ながら当日は雨でしたが、車内アナウンスによる星空解説と星についてのプレゼンテーション、黒部峡谷鉄道のホームページ用のPR写真の撮影を行いました。イベント後のアンケートでは、「学生の解説が面白く楽しかった」「雨で星を見ることはできなかったが天文部の素敵な写真を見ることができてよかった」「雰囲気良かった」などの感想をいただくことができました。



TPU markerのユーザー分析も
行っており、結果、年間ユーザー数は
現在1876人であり、富山県立大学
のサイトであるにもかかわらず、大阪
のユーザーが多く、またTwitter
からのアクセスが多いことがわかりま
した。TPU markerでは地域協働
研究会cococsが行った脱出ゲームイ
ベント、eSportsサークルが行った
YouTubeのみず亭などの記事を掲
載しています。

miryo ku
COC
Core Creative Manager

主にWebやアプリの開発などを通
して、富山県立大学をより面白くする
ことをモットーに、活動している学生
団体です。富山県立大学周辺の出来事
を学生目線で記事として紹介してい
るニュースサイトTPU markerを運営
しています。

富山県立大学の魅力発信を目的
にフォトジェニックおよび工学知
識を活かしたメディアアート作品の作
成を行いました。今回、体験者の作
成情報を入力することで、体験者の
位置情報をインタラクトすること
で体験者の動きに合わせて灯体を
動かすことができます。「ライトとイ
ンタラクション」とプログラミング
によって作られた映像に位置情
報をインタラクトすることで鑑賞
者自身が新たに映像が作ることが
できる「映像とインタラクション」
の2つを作成しました。

今後は、富山県立大学の新校舎
にてレーザーやライトをもちいて
つくる新しいシンボルの作成に活
かす予定です。



TIP

miryo ku
新しい富山県立大学のための
メディアアート作成



リハーサルの様子

富山県は世界的に珍しい風景が
あり観光資源が豊富ですが、訪れ
る観光客には若年層が少ないとい
う現状があります。そこで若年層
の観光客を増やすことを目的に映
像作品の作成を高岡市に提案しま
した。若者の興味を引くために
ドローンを使用し、音楽を組み合
わせた映像作品の制作を企画しま
した。年度内はドローン使用の多
くの課題から、撮影のリハーサル
のみを行いました。現在では、す
でに本番撮影を終え、高岡市の
SNSで映像作品を発信すること
を予定しています。

作曲サークル
Droppette Records

miryo ku
映像作品の作成を通じた
富山県の観光資源の活用

プログラミング教育の必修化を
受け、小学生を対象にしたプログ
ラミング教室を月岡小学校の依頼
で行いました。この教室では、マ
イクロビットを用いた体験講座を
4回とプログラムの利用例として
富山県立大学で研究室見学会を1
回行いました。

体験講座では、私たちの話に真
剣に耳を傾けて聞く姿やグルー
プワーク中に児童間で教え合う姿を
見ることができました。アンケ
ート調査では、楽しかった、分か
りやすかったなどの感想が大半で、
プログラミングに対する意欲向上
に貢献することができ、やりがい
のある体験ができました。



発明倶楽部

kodo mo
月岡小学校における
プログラミング教育活動

令和1年度 地域志向教育・研究・学生自主プロジェクト

本学では、学生が地域と主体的にかかわり、地域課題解決や学生自身の成長が遂げられる活動を推進すべく、教員、学生による取り組みへの支援を行っています。年度初めに、教育・研究・学生自主プロジェクトの3枠で学内公募をかけ、採択します。令和1年度の採択結果は以下の通りです。

区分	テーマ	代表教員	地域
地域志向教育プログラム	教養ゼミによる南砺市との包括連携協定事業の推進	教養教育 福原 忠 教授	南砺市
	「まち」を元気にするための学生主体の「イベント」の実施—小杉旧町および万葉線における活動—	教養教育 小林 一也 教授	射水市 高岡市
	滑川の魅力発信・第3弾—SDGsに取り組み輝く地域と人を発信する—	教養教育 清水 義彦 准教授	滑川市
	地域小学生のための英語教室（2019年度） —グローバル人材育成につながる英語教育支援—	教養教育 山崎 大介 准教授	射水市
	幼稚園年長児への科学実験教室の実施	機械システム工学科 宮島 敏郎 准教授	砺波市
	世界一のたい焼き挑戦を通じた高岡銅器メーカーと高校との連携	知能ロボット工学科 岩井 学 教授	高岡市
	環境フェアにおける「プラネタリウム工作教室」の運営	知能ロボット工学科 松本 公久 准教授	富山県
	高齢者の行動能力測定、リハビリテーションが可能なシステム作成の経験とその評価過程における高齢者との対話コミュニケーション力養成	電子・情報工学科 鳥山 朋二 教授	射水市
	「プロジェクションインタラクション」設備から広げるアートづくり	電子・情報工学科 中田 崇行 准教授	富山市 黒部市
	画像処理プログラミングによる地域産業の効率化の試み	電子・情報工学科 西原 功 講師	射水市 滑川市
	老朽化した橋梁の維持管理優先順位の決定法に関する提案	環境・社会基盤工学科 伊藤 始 教授	射水市 滑川市 南砺市
とやまでSDGsを考える —再生可能エネルギーと地域社会の持続可能な発展	環境・社会基盤工学科 中村 秀規 准教授	富山市	

区分	テーマ	代表教員
地域志向研究	歴史的な技術文化遺産としての十二貫野用水の再評価	教養教育 鈴木 浩司 准教授
	射水市の公共施設等における多言語対応状況に関する調査	教養教育 山崎 大介 准教授
	県の伝統工芸技術の応用利用による県内企業商品のブランド力向上	機械システム工学科 寺島 修 講師
	衛生的手洗いの教育を支援するための看工連携研究	電子・情報工学科 唐山 英明 教授
	小矢部市中山間部における廃校校舎を利用した大気環境観測 —大気汚染物質の原因解明と地域への情報提供—	環境・社会基盤工学科 渡辺 幸一 教授

区分	テーマ	学生団体(代表者)	地域
プロ学 生エ 自 主 ト	TPUmarker: 富山県立大学ニュースサイト	Core Creative Manager(CCM) 情報システム工学専攻博士後期課程2年 伊達伸之輔	富山県全域
	氷見海鮮丼 MAP の増刷と配布範囲の拡大をしよう	地域協働研究会 COCOS 環境・社会基盤工学科3年 中田美雨	氷見市
	黒部峡谷鉄道星空トロッコ	天文部 電子・情報工学科3年 有澤航平	黒部市
	映像作品の作成を通じた富山県の観光資源の活用	作曲サークル Drop-Item Records 知能ロボット工学科3年 小倉涼雅	高岡市
	高齢者・障害者を対象とした esports のレクリエーション	e-sports サークル「E3」 電子・情報工学科4年 山哲也	射水市 高岡市
新しい富山県立大学のためのメディアアート作成	TIP 知能ロボット工学科2年 栗田善規	射水市	

令和1年度前期地域協働授業成果発表会

2019年7月18日(木)、19日(金)の2日間、本学大講義室にて令和1年度前期のCOC成果発表会を行いました。本学学生や教職員、地域関係者の方々延べ125名が参加しました。

【第1日】

- ①「世界一のたい焼き挑戦を通じた高岡銅器メーカーと高校との連携」
プレゼンテーション演習 (知能ロボット工学科 岩井学 教授)
- ②「留学生と交流しよう!」トピックゼミI (教養教育 林智 講師)
- ③「入善町商店街の活性化について」プレゼンテーション演習
(電子・情報工学科/榊原一紀 准教授、中村正樹 准教授
環境・社会基盤工学科/星川圭介 准教授)
- ④「地域協働研究会 COCOS の1年の活動」学生団体 (地域協働研究会 COCOS)



【第2日】

- ①「ロコモティブシンドロームについて考える」
トピックゼミI (教養教育 上村一貴 講師)
- ②「世界一のたい焼き挑戦を通じた高岡銅器メーカーと高校との連携」
プレゼンテーション演習 (知能ロボット工学科 岩井学 教授)
- ③「富山市西町商店街の活性化について—商店街活性化アンケートの提案—」
トピックゼミI (教養教育 濱貴子 講師)
- ④「富山市中心商店街活性化のための観光アプリ菓子コンテンツの開発」
トピックゼミI (電子・情報工学科 中村正樹 准教授)
- ⑤「地域協働研究会 COCOS の1年の活動」
学生団体 (地域協働研究会 COCOS)

令和1年度後期地域協働授業成果発表会

2020年1月30日(木)、1月31日(金)の2日間、本学大講義室にて令和1年度後期のCOC成果発表会をポスターセッション形式で行いました。本学学生や教職員、地域関係者の方々延べ250名が参加しました。

【第1日】

- ①「滑川の魅力発信 -3年目はSDGsに取り組む企業・団体にフォーカス-」
教養ゼミⅡ(教養教育 清水 義彦 准教授)
- ②「太閤山ランド・こども未来館とバクテロイゴを活用した腸内細菌リテラシー教育の試行」
教養ゼミⅡ(教養教育 古澤 之裕 講師)
- ③「- Enjoy Communication - 多文化共生社会を生きる」教養ゼミⅡ(教養教育 林 智 講師)
- ④「子供たちとイベントで賑わいづくり in 小杉&高岡」教養ゼミⅡ (教養教育 小林 一也 教授)
- ⑤「とやまのSDGs人」専門ゼミ(環境・社会基盤工学科 中村 秀規 准教授)
- ⑥「たい焼き挑戦を通した高岡銅器メーカーと高校との連携」
専門ゼミ(知能ロボット工学科 岩井 学 教授)
- ⑦「小矢部市の山間部における大気環境観測2019」専門ゼミ(環境・社会基盤工学科 渡辺 幸一 教授)
- ⑧「ドップラーレーダーを用いた運動測定パラメータ」
専門ゼミ・卒業研究(知能ロボット工学科 佐保 賢志 講師)
- ⑨「富山県の伝統工芸品を活用した楽器の世界」研究室(機械システム工学科 NVFC Lab.)
- ⑩「地域協働研究会 COCOS の1年の活動」学生団体(地域協働研究会 COCOS)
- ⑪「星空トロッコPR用写真撮影」サークル(天文部)
- ⑫「月岡小学校におけるプログラミング教育活動」サークル(発明倶楽部)
- ⑬「映像作品の作成を通した富山県の観光資源の活用について」サークル(作曲サークル Drop-Item Records)
- ⑭「新しい富山県立大学のためのメディアアート作成」サークル(TIP)
- ⑮「eスポーツサークル活動報告」サークル(e-sportsサークルE3)



【第2日】

- ①「サケと川の過去、現在と将来」トピックゼミⅡ(環境・社会基盤工学科 高橋 剛一郎 教授)
- ②「大学教育における地域連携事業を考察する」トピックゼミⅡ(教養教育 福原 忠 教授)
- ③「富山市西町商店街の活性化について」トピックゼミⅡ(教養教育 濱 貴子 講師)
- ④「射水市IoTプラットフォームを想定した新規サービス提案」
トピックゼミⅡ(電子・情報工学科 大寺 康夫 教授)
- ⑤「画像処理プログラミングによる地域産業の効率化の試み」
トピックゼミⅡ(電子・情報工学科 中田 崇行 准教授、西原 功 講師)
- ⑥「高齢者の行動能力測定システム評価に向けた高齢者との対話コミュニケーション力養成」
研究室(電子・情報工学科 鳥山 朋二 教授)
- ⑦「TPUmarker アンケート分析について」学生団体(CCM)
- ⑧「富山県の伝統工芸品を活用した楽器の世界」研究室(機械システム工学科 NVFC Lab.)
- ⑨「地域協働研究会 COCOS の1年の活動」学生団体(地域協働研究会 COCOS)
- ⑩「星空トロッコPR用写真撮影」サークル(天文部)

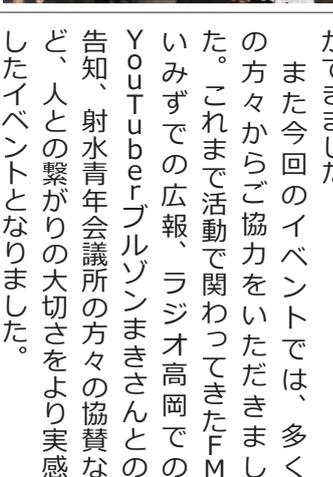


脱出ゲーム

富山県の魅力発信と交流・婚活を目的に10月5日、6日に射水市にあるアミューズメント&バー「リレミトコール」にて体験型脱出ゲーム形式のイベントの開催・運営を行いました。

イベントでは参加者4人1グループで脱出ゲームを体験してもらいました。

脱出ゲームの内容は、ハロウィンの時期ということもあり、「参加者はお化けの世界に入ってしまったお化けたちにお菓子をあげなければ元の世界に戻れない」というCocosオリジナルストーリーです。富山県の魅力を発信するため、謎解きの中に富山に関連したクイズを多く組み込み、クリアすると富山の銘菓がもらえるなどの工夫を



盛り込んだストーリーにしました。

当日はCocosメンバーがお化けの姿に仮装し運営を行い、2日間で合わせて約40名の方が参加してくださいました。参加者は謎解きに苦戦しながらもグループ内で協力しながら脱出ゲームを楽しみ、富山県の魅力や銘菓についてもあらためて知っていただくことができました。

また今回のイベントでは、多くの方々からご協力をいただきました。これまで活動で関わってきたFMいみずでの広報、ラジオ高岡でのYouTubeブルゾンまきさんの告知、射水青年会議所の方々の協賛など、人との繋がりの大切さをより実感したイベントとなりました。



謝辞 ~ thanks ~



2015年から5年間、地域協働コーディネーターを務めさせていただいた堺(さかい) 勇人(はやと)です。

着任当初は、千葉県から移住したばかりで、富山の知識ゼロの状態でしたが、いまでは県内で行ったことのない所はほとんどないくらいたくさんの地域を訪ね、多様な方々との協働に携わらせていただき、気がつけばそこそこの“富山通”になっておりました。商店街、中山間地の農林業集落、中小企業、環境や社会改善に関わる市民団体、行政等々、地域の様々な方々から、地域の魅力や課題について学生と一緒に考え取り組む機会をいただきました。「これから現実社会とどう関わって生きてくかー」学生にとってはそんなことを考えるきっかけとなり、同時に地域の方々にも若者の現状や考えなどに触れ、今後の地域の在り方への捉えなおしにつながっていく、そんなことを数多く目の当たりにしました。上手いいかないこともありながらも、総じて大学と地域の方々共に学びが大きいことを実感することができました。

人口減少や高齢化など地域の課題に加え、最近では自然災害やコロナウイルス等の世界共通の先読みがたい課題にも直面しはじめました。旧来の方法では立ち行かないことも多くなり、より柔軟で多様な対応が求められる中、年齢や立場を超え、地域と大学とが共に考えていくこの地域協働の取組は、ますます重要になると思っています。今後も、より一層本学の地域協働事業へご理解ご協力をいただけたら幸いです。

私自身は、ここで経験したことを活かし、今後も市民団体※の一員として引き続き様々な調整役(コーディネート)を行ってまいります。地域の皆様、そして県立大の教職員の皆様、今までありがとうございました。そしてこれからもどうぞよろしくお願ひ致します。

地域協働支援室 堺勇人

地域協働研究会COCOS

氷見海鮮丼MAP

昨年度、氷見市出身のCOCOSメンバーが氷見にもっと学生や若者を呼びたいというところから、氷見の魅力発信を目的に氷見で有名な魚を使っている海鮮丼MAPの作成・配布を行いました。

この企画では、地域おこし協力隊の仲介で、地元の飲食店の方々にご協力いただいています。また、デザインは富山大学芸術文化学部でフリーペーパーの作成を行っている『GMODE(ジーマード)』に担当していただいています。

COCOSではこの企画の提案、各店舗への協賛のお願いや取材、配布までを行いました。

今年度は、マップを配布した反響を現地取材し、その結果をもとに



マップに価格情報に加え、さらに店舗の位置がわかりやすいようマップと目印を改善しました。そして、マップ全体を暖かみのあるオレンジ色に変更し、増刷を行いました。

この活動は来年度も続けていく予定で、氷見でのイベント企画などを提案していきます。海鮮丼MAPを片手にぜひ氷見に訪れてください。



COCの学生アシスタント COCTA 大募集!

学内の皆さまへ

地域協働授業 (COC の授業) をサポートする学生アシスタント COCTA (シーオーティーイー) を募集中です。

【内容】地域協働授業での教員や学生のサポート 【時間】 各自の空き時間



地域と県大。「地」と「知」でつながろう!

スイチオン!
富山県立大学地域協働事業

公立大学法人富山県立大学 地域協働支援室

<http://www.pu-toayam.ac.jp/coc/>
〒939-0398 富山県射水市黒河 5180
(中央棟 1階 N-103室)

TEL:0766-56-7500 (内線 1255) FAX:0766-56-8022
E-mail:coc1@pu-toyama.ac.jp

編集: 地域協働研究会 COCOS 発行: 令和2年7月

